

書写に対する意識と書写書道教育の課題

—— 「二類書写」¹⁾・「国語科対象書道実習」²⁾
履修学生のアンケートをもとに ——

玉澤友基*・湯澤比呂子*

(1999年1月14日受理)

Yuuki TAMAZAWA and Hiroko YUZAWA

On the Students' Awareness of Calligraphy and the Probleme in Calligraphy Education On the Basis of Questionnaire Addressed to the Students Who Take "Calligraphy for Elemenntary School Teachers" and "Calligraphy for Junior High School Teachers"

1. はじめに

近年の情報処理機器の発達およびその方法の変化は手書き文字の役割にも大きな変化をもたらしつつある。経済企画庁の「消費動向調査」³⁾によると、1997年3月時点の家庭におけるワープロの普及率は42.0%、パソコンは25.2%である。職種によっては、たとえば、小中高校の教員などはおそらく100%近くがいずれかを所有しているであろう。手書きが最も得意なはずの書道科の学生でさえ、卒業論文はワープロ、パソコンで書く時代になった。数年前、ある民間企業の就職試験で、ワープロ、パソコンができるか聞かれ、「出来ません。でも手書きは得意です」と答えると、とたんに相手にされなくなった、と語った書道科の卒業生の言葉が印象に残る。さまざまな表示や掲示も毛筆体印字が可能になり、手元に届く年賀状の印字も毛筆体が多く使われている。毛筆体が好まれるということは、毛筆体の文字に対する関心が希薄化しているということではないだろうし、誰もが豊富な印字フォントの選択によって豊かな文字文化を享受できる可能性が増したと考えればいいであろう。しかし、文字ばかりでなく自らの手を使ってものを書いたり作ったりするという最も人間にとって原初的行為は激減しつつある。毛筆に堪能な人間の存在意義は希薄になり、硬筆も含めた手書きの能力も一般に低下の一途をたどっているように思われる。

先般公示された小中学校の次期学習指導要領においては、学習内容の厳選、基礎・基本の重視が示され、書写も年間35単位時間から30単位時間に削減された。それに対応した教材、

*岩手大学教育学部

教育方法などの研究が早急に求められている。

このような中、当該授業を受講している学生たちは、将来教員になると、文字を手書きする行為が日常的に必要とされる立場に置かれる。大学において彼らの教育に携わる筆者は、彼らが書写書道においてどのような実態と意識のもとにあるのか、把握しておく必要がある。そして、彼らが実際に教壇に立ったとき、どのような書写教育を実践して行ったらいいのかを共に模索して行かなければならない。

本稿を執筆する玉澤は平成4年度から「二類書写」を、湯澤は平成10年10月から、「国語科対象書道実習」をそれぞれ担当している。玉澤は、授業の最終回に学生に「受講感想」と題する感想文の提出を義務づけてきた。授業やその感想文などを通じて、学生の書写の実態や授業に対する感想や意見、彼らが受けてきた書写教育のおおよその部分は捉えてきたつもりである。しかし任意の記述のため正確なデータによる把握とはいかない面があった。また、湯澤は、書道科以外の書写の受講生の実態と意識に極めて新鮮な感動と関心を持って担当している。本稿は、「二類書写」および「国語科対象書道実習」の履修学生を対象に、今日のさまざまな書写書道に関連する問題や実態、意識に関してアンケート調査をおこない、学生の実情と課題を明らかにし、今後の書写書道教育の改善の方向性を探ろうとするものである。

2. アンケート調査の方法

(1) アンケート調査の対象

①二類書写受講学生：出席者99人中80人が回答。

②国語科対象書道実習受講学生：出席者33人中26人が回答。

合計：出席者132人中106人が回答。回収率：80.3%

なお、当日欠席した学生は調査対象から除いた。

(2) アンケート調査の実施時期

1998年12月14日～18日

(3) アンケート調査の依頼と回収の方法

12月14日、15日のそれぞれの授業で配布し、18日までに提出するよう求めた。

(4) 質問事項

本稿末の〔資料〕に示した。

(5) アンケート調査の結果分析および考察の表記について

①便宜上、「二類生」は「二類書写を履修中の学生」を、「国語科生」は「国語科対象書道実習を履修中の学生」を、「全体」は「二類書写を履修中の学生と国語科対象書道実習を履修中の学生の全体」を意味し、学生の所属単位とは必ずしも一致しない。

②学生の記述した事柄は原則として原文のまま引用した。なお、下線部を施した箇所は筆者が補足した部分である。分類整理などの都合上筆者が要約したものについてはその都度その旨を述べた。

③記述式の回答や理由については、一つのセンテンスでさまざまな内容を記述した場合もあり、その場合は、内容を分析検討する段階で、同一人の回答でも複数として扱った。

3. 調査結果の分析および考察

(1) ワープロまたはパソコンの所有率について (問1)

ワープロ、パソコンの所有率は、全体で69.2%である。二類生は65.0%、国語科生は81.5% (図1) である。二類生男子は57.1%、国語科男子実人数は5人であるが100%の所有率である。二類生女子は71.1%、国語科生女子は72.7%である。男女とも国語科生がワープロ、パソコンの所有率が高い傾向にある (図2)。所有率に差が出るのは専攻分野や所属している研究室によるものかも知れないが、詳細な理由はわからない。

なお、今回の調査は、手書きとの関連を意図したので、ワープロ、パソコンのいずれを所有しているかの区別は問わなかった。

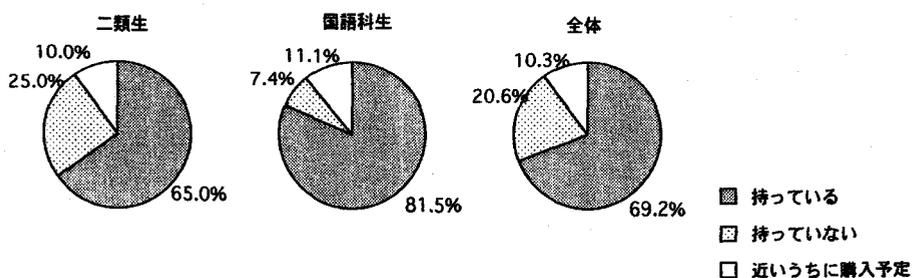


図1. ワープロ、パソコンの所有率

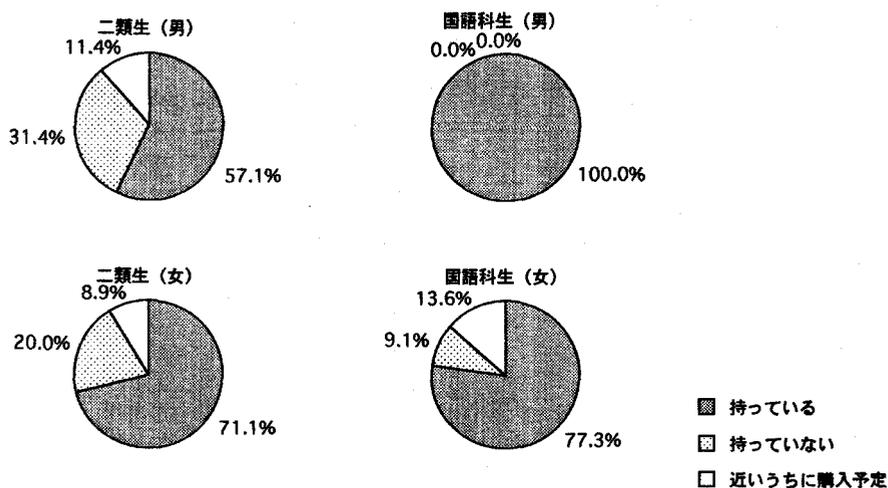


図2. ワープロ、パソコンの所有率 (男女別)

(2) 日常、ワープロ、パソコンと手書きではどちらを使うか (問2)

ワープロ、パソコンを使うのは全体で15.0%、手書きが78.3% (図3)。ワープロ、パソコンの所有率と連動しないのは、学生の日常の書字活動は、授業における筆記が主であり、授業では手書きになるからであろう。

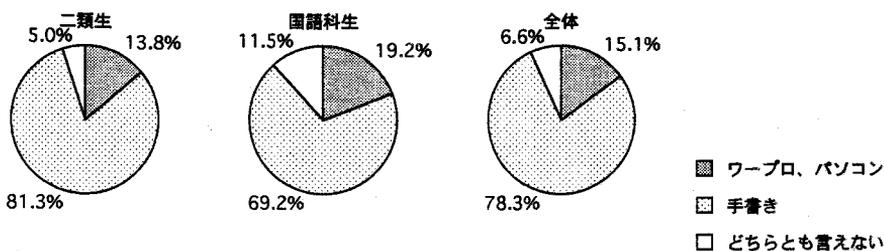


図3. 日常、ワープロ、パソコンと手書きではどちらを使うか

(3) 手書き文字を〈正しく整えて〉書く能力の必要性について (問3)

全体の107人中実に1人を除いて、ワープロ、パソコンが普及しても、手書きできちんと書字できることが必要だと考えている (図4)。

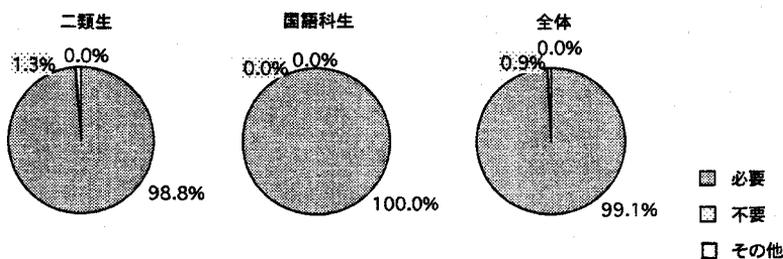


図4. 手書き文字を正しく整えて書く能力は必要か

(4) 文字を手書きすることの好き嫌いとお自分の字の満足度について (問4, 5)

全体の6割弱にあたる57.0%の学生が「手書き」が「好き」と答えている (図5)。男女別では、男子で手書きが好きなのは50.0%、女子では61.2%、嫌いなのは男子が15.0%、女子が6.0%であった。女子の方が手書きが好きになる割合が高いことがわかる (図6)。

また、問5では、満足しているのは全体の6.5%で、全体の3分の2の66.4%の学生が自分の書く文字に満足していないと答えている (図7)。満足しているのが6.5%というのは極めて低い数字である。全体の男女別では、男子の満足しているのは10.0%、女子は4.5%、満足していないのは、男子が60.0%、女子は70.0%である (図8)。

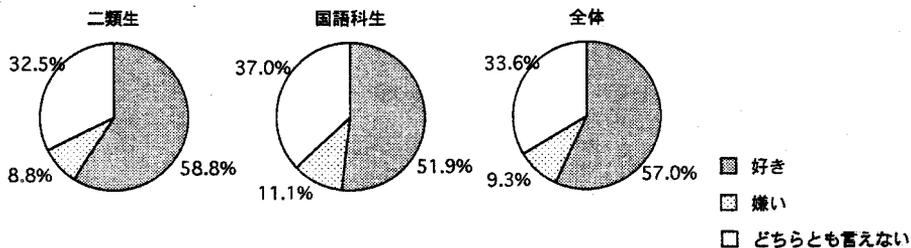


図5. 文字を手書きすることは好きか

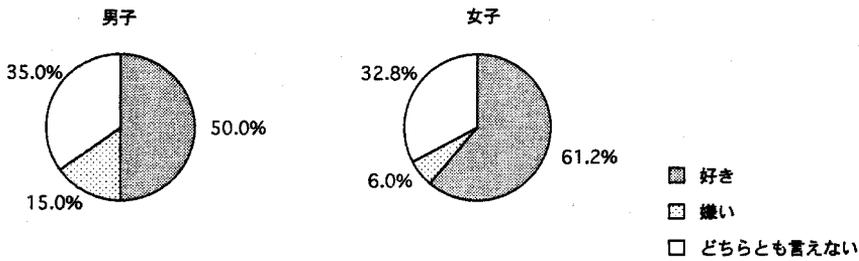


図6. 文字を手書きすることは好きか (男女別)

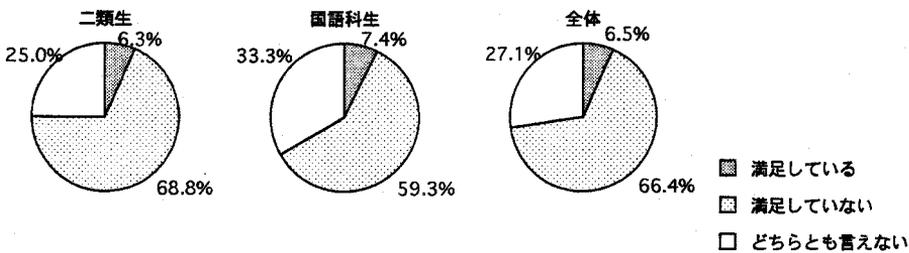


図7. 自分が書く文字について満足しているか

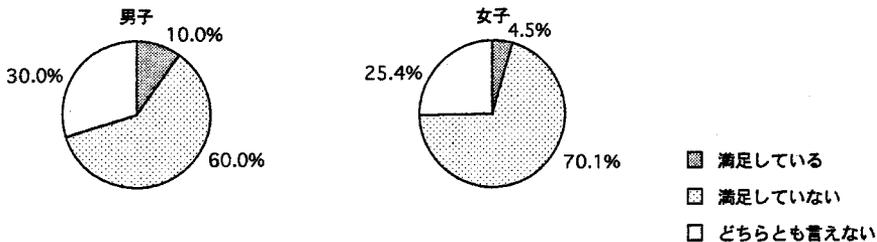


図8. 自分が書く文字について満足しているか (男女別)

これらのことから、手書きが好きと答えた割には自分の書く文字に対して満足していないことがわかる。また、男子は手書きがあまり好きではないが、自分の書く字に対しては比較的肯定的にとらえ、反対に、女子は手書きは好きだが、なかなか満足せず、自分の字に厳しい視線を持って見ているようである。一般的に、文字を書くことに関しては女子の方が興味と探究心を持っていると見てよいのかも知れない。

自分の字に満足している学生の理由を見ると、

- ・自分なりに完成してきた字だから。
- ・まとまった字になってきたから。
- ・見やすいと思っているから。

などをあげており、満足している学生の多くは自分の字に自信を持っている様子である。

満足していない理由としてあげたものを整理すると、

- ・整っていない、崩れる、バランスがとれない、時によって変わるため……17人
- ・うまくないから、下手だから……16人
- ・癖があるから……8人
- ・きたない、きれいじゃない、見栄えがしないから……7人
- ・読みにくい字だから……5人
- ・教育実習で指摘を受けたから……2人

などになる。

上手、下手というのは、『広辞苑』に「物事に巧みなこと。てぎわのよいこと」とあるように、主に技術や字形の取り方の巧拙をさすと考えられるが、アンケートの回答中では美醜や整不整なども含意して回答しているのではないかと思われ、これらの理由はほとんど同一の状態をあげたものと解釈できよう。

どちらとも言えない理由には、「満足するときと、満足しないときがある」という趣旨のものが最も多く、その日の調子などで筆跡が変わってしまうのを満足できない理由にあげた学生と、どちらとも言えない理由にあげた学生とがあった。

ちなみに、ワープロ、パソコンの所有との相関関係を調べてみると、ワープロ、パソコン所有者の60.8%が手書きを好き、0.1%が嫌いと答えている。また、非所有者の50%が手書きを好き、0.1%が嫌いと答えている（図9）。このことから、ワープロ、パソコンの所有は手書きの好き嫌いには無関係であることがわかり、手書きが嫌でワープロ、パソコンを所有するという傾向もなさそうである。

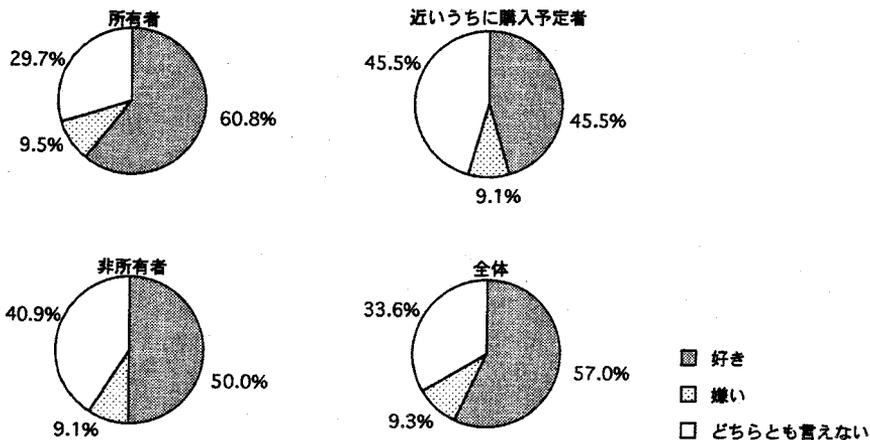


図9. ワープロ、パソコンの有無と手書きの好き嫌いの関係

(5) うまく書けるようになりたいか (問6)

自分が書く文字に満足していないと答えた71人中70人までが、うまく (きれいに、あるいは整えて) 書けるようになりたいと答えている。

その理由を見ると、

- ・人前で恥ずかしい思いをしないですむから。
- ・年賀状や手紙、のし等を書くとき、下手だと悔しいから。

- ・きれいな方が得だから。
- ・好印象を与えられるから。
- ・読みやすい字の方がいいから。

など、他人の眼を明確に意識した回答が38人、

- ・自分でもきれいに書けた方が気分がいいから。
- ・手書きは一生使うから。
- ・手書きで書く必要があるとき困るから。

など、どちらかという自分の主観の問題をあげたのが15人であった。

(6) 手書き文字はどうあるべきか (問7)

「きれいに(美しく)書いた方がよい」という回答が全体の8割近くの78.5%に達し、「読めればよい」は11.2%、「個性的であればよい」6.5%である(図10)。読みやすさが確保されれば、伝達性という文字の最大の役割はクリアされるわけではあるが、人間の心理としてそれだけでは満足できない、そういった文字の持つ側面を浮き彫りにしている。

その他を選択肢として回答した学生の理由には、「その人の価値観でよい」や「TPOに合わせて」というのがあった。

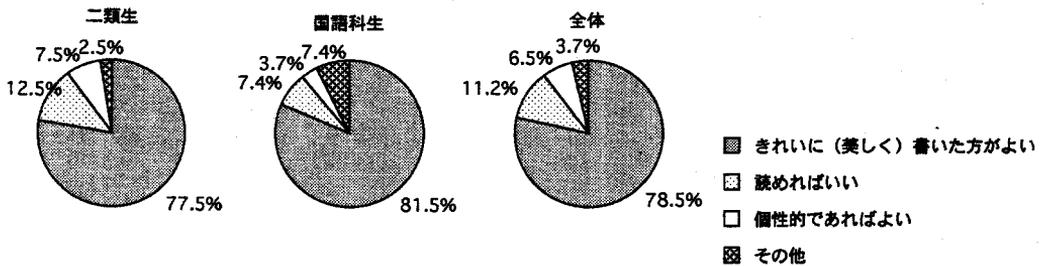


図10. 手書き文字はどうあるべきか

(7) 字を習ったり、書道をやりたいか (問8)

全体の63.6%が習いたいと答えている。前問で78.5%がきれいな方がよいと答えているが、実際に習うとなると二の足を踏むものが出てくるようである。二類生と国語科生では大きな違いが出た。国語科生の習いたいと思うと答えた割合が81.5%であったが、二類生は57.5%であった。習いたいと思わない数も国語科の7.4%に対して、二類生は23.8%と多い。(図11)。

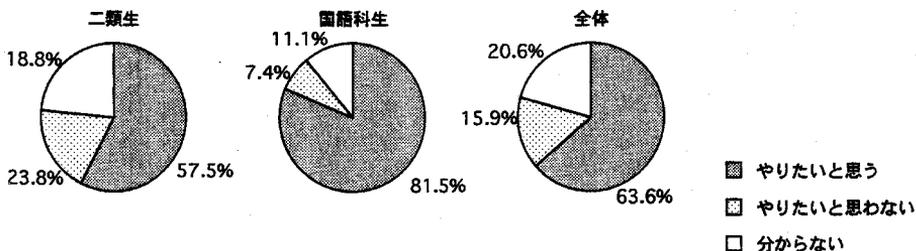


図11. 機会があれば、字を習ったり(書写、習字)、書道(芸術)をやりたいか

国語科生と二類生の習いたい理由には格別の違いは見当たらなかった。あげられた習いたい理由を要約しまとめてみると、

- ・以前習っていた、あるいは現在習っている、習ってみて興味が湧いた、興味がある、楽しい、心が落ちつくから……………31人
- ・うまくなりたい、きれいに書きたい、正しい字を書きたいから……………14人
- ・実用性として必要だから……………7人
- ・日本人としての教養だから……………5人
- ・芸術表現としての欲求……………3人

などとなり、習いたい理由のトップに、必要性よりも、文字を書く主観的能動的「楽しみ」をあげている人数が多いのが注目される。

習いたくない理由として、いずれも二類生だけ、

- ・過去に習った経験があり、これ以上うまくなれないと思うから。
- ・暇がない。
- ・面倒。
- ・そこまでしてきれいに書こうとは思わない。

などであった。

(8) 自分の書字活動の問題点や課題について (問9)

書字活動においては、古来、執筆法・用筆法・運筆法の重要性が言われる。厳密には今回のアンケートの回答選択肢の「持ち方」は「執筆法」、「筆使い」は「用筆法」をさすが、書写では筆使いは用筆法と運筆法の両者を含包して用いられている。また、書写ではさらに「姿勢」が重要視されている。その慣例にしたがって回答の項目を立てた。

二類生、国語科生いずれも、字形をあげている学生が最も多くほぼ同率で47%ある。「持ち方・姿勢」と「筆使い」に対する問題意識は、二類生、国語科生それぞれ若干の違いが見られ、二類生は「持ち方・姿勢」をあげたものが31.0%と多く、「筆使い」は18.0%であったが、国語科生は同率の25.0%であった。違いの原因の詳細は不明だが、それぞれの授業における指導のしかたの違いが影響しているかもしれないし、学生の実態の違いであるかもしれない。この両方を合わせるとほぼ50%になり、「字形」を上回る(図12)。

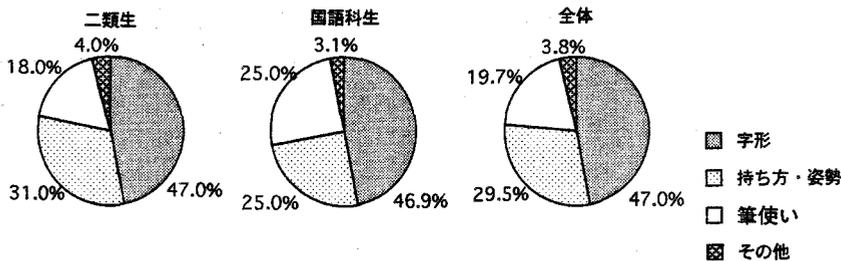


図12. 自分の書字活動の問題点は何か

筆者が当該授業において気付くことは、毛筆、硬筆ともに執筆法や用筆法、運筆法、姿勢などが望ましくない状態の学生が実に多いことである。久米によると、「標準的持ち方」

は学生の1～2割しかいないという⁴⁾。また、菊地によれば、児童の硬筆の「望ましい持ち方」は3割に止まるという⁵⁾。本学の受講生について詳細な実態調査は未実施であるが、同様であろうと思われる。(4)で述べたように、自分の書く字に満足していないと答えた学生の理由を見てみると、出てくるのは、書かれた結果に対するものであり、執筆法・運筆法に関するものは皆無であったが、図14に見るこの結果は、実際授業で筆を執って書く中で、字形以前の執筆法・運筆法の重要性に気付いた証拠であるかもしれない。

(9) 小中学校の書写の授業に満足しているか (問10)

小中学校で受けた書写の授業に満足しているのは全体で15.4%、満足していないのは58.7%である。際立つのは、国語科生の不満度が高いことで76.0%に上る (図13)。

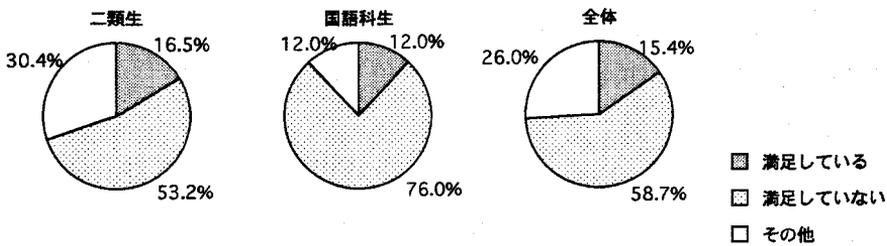


図13. 自分が受けた小中学校の授業に満足しているか

満足していると答えた学生で、教師の指導がよくてわかりやすく上達したと、はっきり教師の指導のよさをあげた回答は1人だけであった。若干の工夫をした指導をあげたのが3人であった。

問5で自分の書く文字に満足していると答えた7人のうち、問10で小中学校で受けた書写教育にも満足していると答えた学生は、皆無であった。書写教育に満足していないと答えた学生は85.7% (6人) であった (図14)。

また、自分の書く文字に満足していないと答えた71人中、書写教育に満足していると答えた学生は、12人で16.9%。書写教育に満足していないと答えた学生は、41人で57.7%であった (図14)。これを見ると、自分の字に満足している学生がかえって書写教育に満足していない結果が出た。それらの原因については次項の(10)で学生たちがあげた問題点に求められよう。今回の調査からは外したが、自分の字に満足している学生の書写力は書塾などでの学習によるものかもしれない。

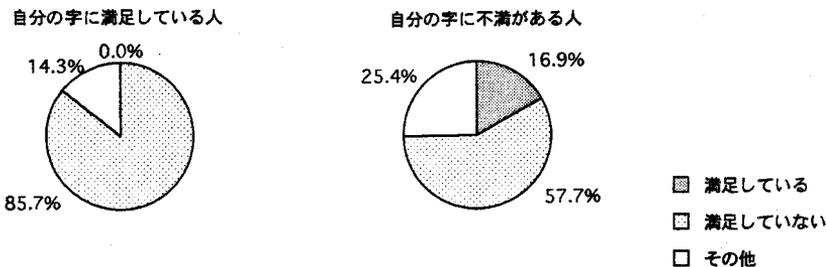


図14. 自分が受けた書教育に満足しているか

(10) 書写教育の問題点や課題について (問11)

学生が自分たちが受けた書写教育を振り返りどのように感じているのか、問11において回答を求めた。現行の学習指導要領下でほとんど小中学校の教育を受けていない。また、実際の現職教員の意識とは、ずれがあるかもしれないが、教育学部学生の意識調査として重要なデータであり、書写教育の実態の一端を窺い知ることができるものと思う。アンケートに記述されたものを整理し多い順に並べてみると、大体次のようになる。

- ①時間不足のための未定着、書写学習の日常の書字への転移性の不足……………20人
- ②個々の書写力の能力差に応じた指導の欠如あるいは不足……………14人
- ③結果重視の評価に対する疑問……………13人
- ④硬筆と毛筆の関連の不明確性と不十分性……………10人
- ⑤教師の指導力の不足……………9人
- ⑥子どもの意欲を引き出す楽しい授業の工夫不足……………9人
- ⑦基礎・基本的事項の指導不足……………8人
- ⑧他に、教材研究・教材の工夫・方法論の研究不足など

以下、これらについて考察と私見を加えてみる。

①時間が不足のための未定着、書写学習の日常の転移性の不足

学生の記述によると、「いろいろな活動があり時間が少なくて十分練習出来ない」、「定着していないので日常に生かせない」というものである。

小学校では大概45分間の1コマの授業の中で、準備から後始末までを行わなければならない。そこにいろいろな工夫をして活動を盛り込みすぎると、練習時間や枚数不足になりがちなこと確かである。

回答中にはなかったが、週1度の授業で、間隔が空きすぎることも定着しにくいことも原因としてあるのではないか。次期学習指導要領の総則の「授業時数等の取り扱い」で述べられているように、授業の1時限の長さや時間割の弾力的編成などにより、集中的に書写の授業を組んで指導するのも一策かもしれない。

②個々の書写力の能力差に応じた指導の欠如あるいは不足

「技術の差、経験の差(書写における)がある子どもに対して、同じ課題を与えること」、また、「書き方にはそれぞれ癖があるので、より見やすい字を書かせるためには、もつと個々を見て欲しい」「一人の教員では目が行き届かない部分が生じてくる点」と、一人の教師が多人数を一斉指導しなければならず、個々の子どもの到達度に応じた指導がされにくいこともあげられた。大学生の授業でも同様であるが、うまく書けない場合、問題点は個々によって異なるケースが多く、解決法も当然個々に応じた助言や指導が必要となる。たとえば、ティーム・ティーチングなどは、特に書写の学習においてはその効果が大きいものがあると考えられる⁶⁾。もし不得手な教師でも得意な教師とペアを組むことができれば、相互啓発の機会も期待できるであろう。次期学習指導要領の総則の「指導計画で配慮すべき事項」に盛り込まれた「個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、教師の協力的な指導体制など、指導方法や体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実」の具現が書写においてもなされることを期待したい。

③結果重視の評価に対する疑問

学生の記述によると、「全部の教師ではないが、手本丸写しの授業で、結果のみの評価

が多い」,「手本に似ていればよいという点」というものがあげられていた。学習過程を重視するのは今日の教育評価としては常識であり,旧来の作品主義と呼ばれる評価指導法からは脱皮しなければならない。

④硬筆と毛筆の関連の不明確性と不十分性

学生の記述によると,「毛筆と硬筆と分けて考えてしまうため,毛筆で学ぶことを硬筆に生かせない」「毛筆に偏りすぎ」というものである。現行学習指導要領には,「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」には「(2) 毛筆を使用する書写の指導は,第三学年以上の各学年でおこない,硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し,(中略)なお,硬筆についても,毛筆との関連を図りながら,特に取り上げて指導するよう配慮すること。」と明示されている。毛筆,硬筆の関連は,現行指導要領において新たに盛り込まれたものである。前述したように,現行学習指導要領のもとで教育を受けていない学生たちにとっては,これは当然の指摘であろう。

⑤教師の指導力の不足

学生の記述によると,5番目になるが,これが最も根幹をなすものであろう。

- ・教師自身綺麗に書けない。
- ・教師が子どもに教えられる程,知識,技能を持っていない。
- ・教師自身が苦手意識を持っていて,子どもにまかせっきりになっていることもあるのでは。
- ・教師が書写教育に対して自信がないために,示範ができない。

などが具体的にあげられていた。書かなければ教えられないということは必ずしもない。だが,技術指導を伴う書写の指導力としては,ある程度の実技力なしには理論的能力も形成されないのであろう。平成元年の教員免許法改正の成果が表れるまでには時間がかかろう。現職の教師には自主的研修に期待するしかないが,特に実技は本を読んだりVTRを見たりすればわかって簡単に身につけられるというようなものではなく,教師の多忙な日常の中での研修は困難に近い。筆者は,未来の教師を育成する立場の大学の教員養成教育に課せられた課題であると受け止めている。

⑥子どもの意欲を引き出す楽しい授業の工夫不足

回答では,

- ・子どもの課題意識がないこと。
- ・自分には印象がないので,それも子ども達の中に残らない理由の一つかもしれない。
- ・〈書写の楽しさ〉の部分がたりない。
- ・書写の時間は,好きではないという生徒が多いらしいのでそういう生徒たちの興味を引くためにはどうすればよいかという点。

などがあげられた。さまざまな問題と関連し,教師の指導力,教材研究,指導法の研究などが課題である。子ども自らが課題を設定する課題解決型学習⁷⁾などの導入や,情報処理機器の活用も課題となろう。

また,書写は実用的字形とそれを生む技術的面的のみ目が向けられてしまいがちで,これを平面的に受け取ると,たとえば,ワープロ,パソコンのキーボードの能率的打鍵法を伝授しているのと大差ない,浅薄なものに考えられかねない。しかし,われわれが使用する漢字の書体を比較し造形原理や形成行為を分析してみると,中国民族の永年の文字形成

にかける努力があり、楷書は漢字が最後に行き着いた極めて高度に発達した文字であることがわかる。すなわち、横画は篆書隷書が基本的に水平なのに対し、楷書は微妙な右上がりになる。これ一つとっても、高度になっている。筆の動きについて言うと、篆書は同一の太さで筆の上下動はほとんどなくてよい。しかし、楷書は1本の点画の中でも太さ、上下の動きは変化に富んでいる。たとえば、「三」という漢字であれば、篆書は3本の水平線を縦に等間隔に並べればよい。しかし、楷書は、等間隔なのは同じだが、3本の線の長さ、反り具合、強弱に変化をつけるのを手書きの場合は原則とする。このように、楷書は実用的効率性を中心に据えながら、書字動作の合理性、力学的、美的あるいは心理的要素などさまざまな要素を加味しながら作り上げた英知の結晶である。

仮名も同様に日本民族の知恵と英知の結晶である。漢文を何行か手書きしてみると気づくことであるが、平仮名という曲線主体で流動的構成原理の文字と、直線主体で構築的構成原理を持つ漢字の楷書を併せて日常書写に使用する独特の表記方法を築き上げた日本語表記は、労力的には少なくともすむ代わりに、調和させて筆記するのはある意味で漢文よりむずかしい。たとえば、学習の段階に応じて、このような文字や書字活動にかかわる事柄を盛り込むのも子どもの興味関心を呼び、書写力の育成に有効ではないか。

⑦基礎・基本的事項の指導不足

記述された回答を具体的にあげると、

- ・姿勢、筆の持ち方、始筆、終筆、はね、払いなどの指導が足りない。
- ・もっと始めの基礎からしっかりと教えるべき。
- ・写して書くことから自分の字にいくまでしっかりやってほしい。
- ・手本のように書けばよいと言われるが、どうすれば(筆の細かい運び方・向き)が教えられず結局どうすればいいかわからない。
- ・筆圧などの力の入れ具合がよくわからない。
- ・どういう点に気を付ければ良いか、具体的に教わらなかった。

などである。これらは、これまでも受講学生の感想文でしばしば述べられていた、過去の書写教育に対する指摘でもある。これらを軽視してしまうと、その後の指導効果があがなくなる。現在も今後も書写教育のむずかしい点で、指導法の研究や、教師の指導力の問題ともかかわる。書写指導の初期においてはもちろん、常に、これらの定着には配慮する必要がある。そして、これが定着すれば他のことは多少寛大に対応するくらいの気持ちが必要ではないかと思われる。(8)で述べたが、執筆法(鉛筆の持ち方など)の指導はこれに入る。

⑧教材研究・教材の工夫・方法論の研究不足など

具体的にあげられていたのは、

- ・かご字の練習プリントの意義、どこでどのように使ったらよいか。
- ・教材研究
- ・方法論

である。

教材研究と方法論についてはそれ以上の具体的言及がないが、かご字だけでなく、目的と方法、効果などについて、厳選と、基礎・基本重視の流れの中で一層の研究が必要である。

(11) 義務教育における書写教育の必要性 (問12)

義務教育で書写教育が必要と答えたのが、9割ほどの88.8%に上り、不要と答えたのは2.8%であった (図15)。

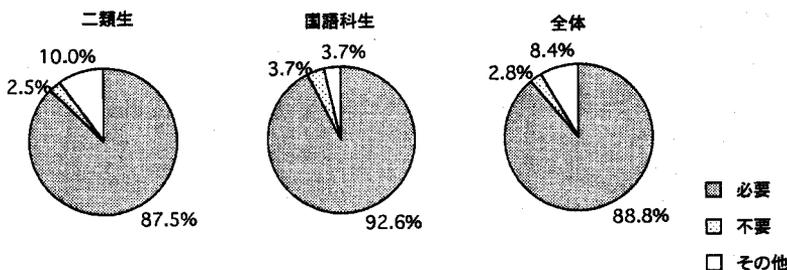


図15. 義務教育で書写教育は必要か

必要と答えた理由を大まかに整理してみると、

- ・正しい文字、整った文字、うまい文字、きれいな文字を書けるようにする…30人
- ・書字活動の基本的理解と習得の場としての役割……………16人
- ・日本の文化、芸術、伝統だから……………16人
- ・経験としての必要性や派生的効果……………9人

などであった。

不要と答えたのは実人数で3人であるが、その理由は、「個人がふだんから気を付けておけばよい」というものであった。

(12) 毛筆と硬筆の必要性について (問13)

義務教育において書写教育が必要と答えた学生の中で、毛筆と硬筆両方必要と答えたのが86.5%、国語科生で92.0%である。また、硬筆のみでいいと考えている学生は二類生の方に若干多い。他の設問でも一般にそうであるが、二類生に比べて国語科生の書写に対する関心興味の度合いが高い傾向がある (図16)。

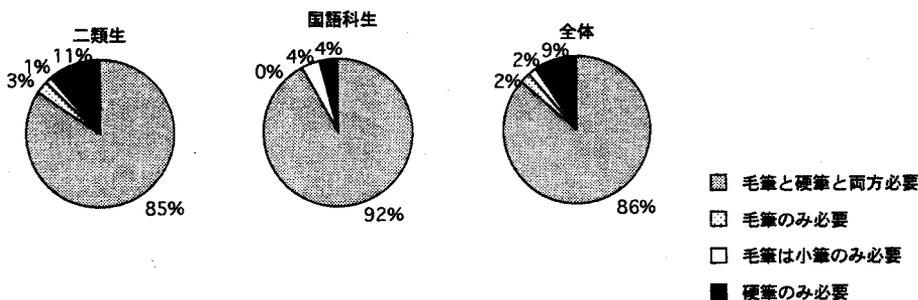


図16. 書写教育の毛筆と硬筆の必要性 (注:問12で必要と答えた人のみ回答、なお「毛筆は大筆のみ必要」と答えた回答は皆無であったのでグラフの表示からは外してある。)

書写の必要性の理由の中で、「毛筆で書いたあと硬筆を持って書こうとすると一画一画

が丁寧になっている」と指摘した学生がいたが、毛筆学習は、丁寧さに止まらず、硬筆の字形・運筆にプラスの効果をもたらすことは経験的には認識されていることである。しかし、毛筆・硬筆の関係を論じる際にあまり考慮されていない。むしろ、(10)の⑩で指摘されているように、毛筆・硬筆の関連性や転移性の欠如を指摘されることが多い。この原因として次の2点を考える。一つは、それぞれの初期的指導段階で、共通性や関連性と、相違性が意識化されていないこと。二つめは、それぞれの学習そのものの不完全さ、である。芸術書道では、「日常の実用書がうまく書けなければ本当の作品は書けない」と言われる。この場合の「日常の実用書」とは毛筆も硬筆も含めての意味であるが、本来、毛筆と硬筆は用具の扱い方に相違点があっても、字形などはほとんど同じと考えてよいであろうし、両者は別物ではなく相関性があると考えられる。

(13) 書写教育の教育的役割について (問14)

記述されたものを整理して大別すると次のようになる。

①日本語のコミュニケーション手段としての基礎の文字の教育の役割……………40人

文字に対する興味関心を育てる、正しい筆順や字形を覚えさせる、文字を正しく整えて書くなど、書字活動の能力を養成するというもの。これは、国語科書写の役割として位置づけられるものである。

②日本文化、伝統、芸術性との接触や理解、保持の役割……………19人

日本語、文字、日本文化などを大切にしようとする心を育てる、筆という日本古来の道具を使って字を書くことで子どもに日本文化を感じさせる、文字を書くことのすばらしさ、美的精神を育てるといったもの。

③集中力、丁寧さ、落ちつきを生む役割……………8人

心身を落ち着かせ、集中力を養う。丁寧に物事をやる能力の養成など。これもよくあげられるものである。

④全ての基礎・ものを見る目・考える力・生活を見つめる力を養う役割……………6人

正しい姿勢や持ち方を教えることは全ての学習につながる。自分の字について考えさせることで、自分の生活なども考えさせることができる。など。

⑤情操教育・感性教育としての役割……………3人

情操、感性の教育、精神の教育が可能というもの。

書字活動の持つ側面的役割と言っているかもしれないが、②以下に学生たちがあげているようにいろいろなことが考えられる。これらは、現在の教育の中で学習指導要領などに明示的に示されていないが、一般的には、いろいろな場面で言われるものである。芸術性を意識した考え方には、結果として、書写の実用性の目的を十分に達成できなかったという経緯³⁾があるわけで、十分な論議と検討が必要である。

(14) 義務教育の教員に書写の能力の必要性について (問15)

必要と答えたのが全体で9割近い87.9%である (図17)。

理由を整理してみると、

- ・自らが書ける方が指導力が高く、説得力が出る。教える身として当然……………38人
- ・真似をする。手本や模範にならなければならない。教師の影響は大きい……………18人
- ・板書など教師は文字を書く機会が多いから……………9人
- ・書写の授業があるから……………3人

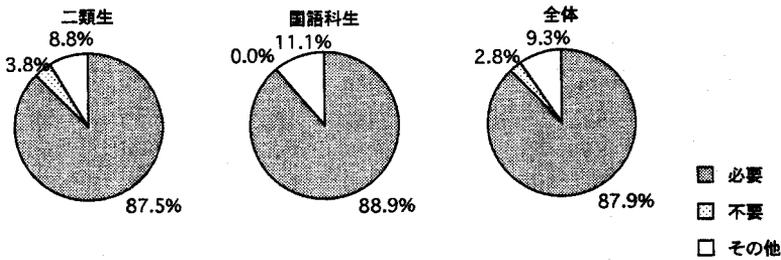


図17. 小中学校の教員の能力として、書写の能力は必要か

などをあげている。はじめの2つの理由は書写を含意しているようにも受け取れる。

不要と答えた理由は、「実技には差が出てしまうのは当然で仕方がない」というものであった。

その他と答えた理由は、小学校には必要で中学校には不要が1人、書写の専門の教員を置けばよいというのも3人あった。

(15) 書写を教える自信の有無について (問16)

教える自信があると答えた学生が全体で12%、国語科生で18.5%、二類生では10.0%に過ぎない。自信がないと答えたのは、いずれも80%を越えている (図18)。

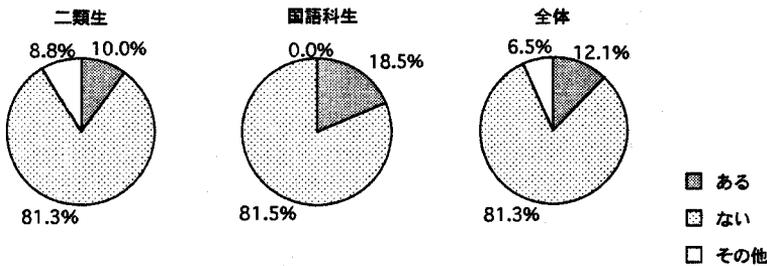


図18. もし教員になったら、書写を教える自信はあるか

教える自信がある理由の主なものは、

- ・文字を書くことに興味があり、字形を整えるポイントがわかってきたため。
- ・一通り習っていたから。基本くらいは自信がある。
- ・授業で今現在、丁寧に教わっているから。

などである。

また、教える自信がない理由は多くあげられているので整理してみると、

- ①自分の実技力に対する不安……………30人
- ②理論、知識に対する不安……………5人
- ③指導法がわからない……………6人

などにまとめられる。実技力の不安をあげるものが圧倒的に多い。終講時の答えではないし、学生の主観的心情ではある (相当な力があっても満足していない学生もいるし、その反対

もあるので、客観的实力診断とは言えない)が、自信のない学生の多さは深刻に受け止め、今後の当該授業の充実に向けて鋭意努めなければならないと認識を新たにしていく。

4. まとめ

今回のアンケート調査を通じて、学生たちから提示された実態や問題は多岐にわたり、ほぼ書写教育のそれを網羅していると思われる。また、教育現場の問題は同時に教員養成にかかわる筆者の問題である場合も多い。それらの中から、いくつかに絞り私見を述べてまとめたい。

筆者は、ワープロやパソコンの普及につれ、手書きの書字活動に対する意識も大きく変わっているのではないかと、特に、手書きや書写を重要と考えない傾向が強まっているのではないかと考えた。過去のデータがないので比較はできないが、アンケートの結果、現在、当該授業を受講している学生のワープロ、パソコンの所有率はおよそ7割であった。この値がどう変化していくのか、それとともに、書写や手書きに対する意識がどう変化するのか、しないのか、大変興味深い。文字を手書きすることが好きと答えた学生はおよそ3分の2もあり、ワープロ、パソコンの所有とは関係がないようである。そして、学生たちは、時代が変わっても、一般社会人としても、教員としても書写の能力が必要であると考えている。しかし、3分の2の学生が自分の筆記した文字に満足しておらず、自らの書写能力を向上させたいと願っている。しかし、彼らの回答の中からは、そのための有効な手がかりが得られないままにあるという現実が裏付けられた。教員養成においては学生自身の書写力の向上はもちろんであるが、さらに、指導力の養成も必要である。教員養成教育に課せられた重い課題と認識する。学生たちがあげた教育現場の問題点の多くは大学における教員養成の問題でもであると感ずる。最大の問題の指導力不足の元凶は過去の教員養成にあると言っているのである。

彼らの5割が自分の書字活動の問題点として「字形」をあげている。それだけ字形がむずかしい、あるいは、わかりにくいということの証左でもあろう。たとえば、篇と旁から成る複合文字の篇の右側を単独文字と同様に長く書く学生が後を絶たない。文字の識別性から考えると別段影響はないとしても、「整う」という視点から見るとやはり改善したい点である。字形に言及した文献は、ちまたに溢れている。しかし、それらの多くは個別の文字の詳細な分析に止まり機能的でなく、いちいち覚えなければならないものが多い。漢字であれ平仮名であれ、初めに字形の原則があつて出来上がったものではないだけに、字形原理は詳細を極め、筆順同様な例外を生んでしまうことになるという現象に突き当たり、整然と体系化されきれていないといつてよいであろう。最近の字形研究としては筆者は平形⁹⁾の研究に注目したい。

さらに、「持ち方・姿勢」を3割、「筆使い」を2割があげている。新学習指導要領の中でも、基礎・基本の重視がうたわれている。効率的で効果的な能力を身につけるための基礎・基本として、執筆法・用筆法・運筆法の定着を特に筆者はあげたいと思う。これらがきちんとできていれば、字形などは自分で学んでいくことも可能であるからである。近年の教育改革で盛んに言われるところの「自己教育力」の原点になるものであろう。字形は結果として表れるので関心は向けられやすいが、執筆法や用筆法、運筆法はそうで

はないようである。あるいは、向けられても、初学の場合学習者一人の努力だけでは解決しがたい。優れた感性の持ち主やある程度経験を積んだものには、字形を見てこれらを推測することが可能であるが初学のものには無理な場合が多い。文字が紙面に筆記されるということは、運動の結果としての点画が記録されることであり、運動を生み出すフォーム（姿勢）や運動（用筆や運筆）がよくなければ、意図した字形を生み出すことはむずかしい。当該授業において、字形や点画の形が思いとおりにならない学生の原因は、突き詰めていくと、この用筆法、運筆法にあることが多い。本来書きにくいはずの筆の持ち方や動かし方で無理やり書こうと大変な労苦を重ねているのである。初期段階で、ある程度の望ましい執筆法、用筆法、運筆法などを定着させることが必要であると考えますが、これらは、参考書などの活字による知識理解では十分な理解が得がたいものであり、定着に時間を要するものである。対面指導によるのが最も効果的であるが近年の情報処理や視聴覚機器の活用などにより追求されなければならない。

学生たちは日常書写への転移性の低さを問題点としてあげていたが、日常の書写と直結するのは中学校の行書指導である。多くの教科書の行書の教材の作例には、簡単な行書という意味で、極めて楷書に近い行書が掲載されているが、これらは日常の筆記にはあまり有効ではないと考える。行書の多様なバリエーションをより理解させ、かなり崩した行書も教えるのがいいのではないかと考える。書に心得がある人が普通は書かないような、あるいは書きにくいようなものを提示するべきではない。その筆使いの難易性をあげるかもしれないが、それは平仮名の学習で既習のことであり、楷書との相違や利便性に気づくと、中学生にはむしろ興味がそそられるのではないかと推測するのである。

学生たちの多くは、書写書道においては単に文字伝達の機能としての役割に止まらず、伝統文化の継承発展や美的感覚の育成、情操の涵養などさまざまな側面の教育的効果が期待できると考えている。これらはすでにいろいろな場で指摘されていることで新しい事柄ではない。しかし、科学技術万能の時代から、人間と自然の調和の時代へ視点の移行が必要とされる21世紀に向けて、文字を自らの手で書くという活動を通じて得られるさまざまな効用を再認識し、積極的に活用していくならば、われわれはより豊かな文字文化を享受できるであろう。

なお、本稿は書写を中心に述べたが、高校の芸術科書道においても、書道Ⅰの目標に「書写の能力を高め」と、書写があげられているし、書写が書道の基礎に位置付けられる以上、芸術科書道を考える際、本稿で指摘したことがらは出発点として認識されるべきであると考える。

【註】

- 1) 教育職員免許法施行規則の小学校教諭の免許取得のための教科に関する科目「国語（書写を含む）」の書写の授業を本学ではこう呼んでいる。
- 2) 教育職員免許法施行規則の中学校教諭国語の免許取得のための教科に関する科目「書道（書写を中心とする）」の書道の4単位のうち2単位分の授業を本学ではこう呼んでいる。
- 3) 『第四十八回 日本統計年鑑』（総務庁統計局、日本統計協会・毎日新聞社、1998、p.583）による。

- 4) 久米公「書写書道教育要説」(萱原書房, 1989, pp.62-63)
- 5) 菊地利昭「漢字の字形指導に関する書教育上の諸題」(昭和63年度教育研究学内特別経費 研究報告書「漢字・漢語教育の歴史と展開」, 1989, pp.85-126)
- 6) 学会における最近の発表には次のものがある。
 - ①須永由美子・外田久美「中学校国語科書写におけるT.T方式導入による実践的研究」(『書写書道教育研究』第10号, 全国大学書写書道教育学会, 1996, pp.93-102)
 - ②釘持勉「ティーム・ティーチングの状況の認識とこれからの展望」(『書写書道教育研究』第11号, 全国大学書写書道教育学会, 1997, pp.90-96)
 - ③今関正次・江藤満美子・外田久美「千葉市立真砂第四小学校の実践報告」(『書写書道教育研究』第11号, 全国大学書写書道教育学会, 1997, pp.97-108)
 - ④町川哲「香川県小学校教育研究会書写部会の実践報告」(『書写書道教育研究』第11号, 全国大学書写書道教育学会, 1997, pp.109-118)
 - ⑤釘持勉「ティーム・ティーチングに関する主要文献目録」(『書写書道教育研究』第11号, 全国大学書写書道教育学会, 1997, p.119)
- 7) 長野秀章「小学校国語科書写の授業研究における一考察—長期研修生と地域の実践を通して基礎・基本を考える—」(第13回全国大学書写書道教育学会発表資料, 1998.11.29姫路市) に実践の紹介があった。これとは別に, 本学附属小学校で, 1998年12月1日に実施した阿部真一教諭の二類書写受講生対象実地指導においても, 全体の目標と併せて子ども一人一人の目標も考えさせ, 教師の一方的課題提示を避けた指導が配慮され, 効果的であった。
- 8) この問題については, 前掲の『書写書道教育要説』pp.103-118に詳述されている。
- 9) 最近の研究では, 平形精逸の次の発表が注目される。
 - ①「字形要素による学習漢字の分類〈I〉」(『書写書道教育研究』第4号, 全国大学書写書道教育学会, 1990, pp.64-74)
 - ②「字形要素による学習漢字の分類〈II〉」(『書写書道教育研究』第5号, 全国大学書写書道教育学会, 1990, pp.34-43)
 - ③「書写書道教育における基礎・基本について…字形原理の一考察を通して…」(第13回全国大学書写書道教育学会発表資料, 1998.11.29姫路市)

[資料]

二類書写・国語科対象書道実習アンケート

〈提出期限: 12月18日(金) 場所: ①513または514〉

このアンケートは, 受講生の皆さんの書写に対する意識や, 小中学校で体験した書写の実態の一端等を把握し, 標記の授業の改善に役立てるとともに, 書写教育の在り方を考える基礎資料として活用するためのものです。よろしくご協力ください。

質問事項

問1. あなたはワープロまたはパソコンを持っていますか?

- 1) 持っている 2) 持っていない 3) 近いうちに購入する予定

問2. あなたは日常の書字活動において、ワープロ・パソコンと手書きではどちらを使うことが多いですか？

- 1) ワープロ・パソコン 2) 手書き 3) どちらともいえない

問3. ワープロ・パソコンが急速に普及しつつある現在ですが、手書き文字を〈正しく整えて〉書けるようにすることは一般社会人として必要だと思いますか？

- 1) 必要 2) 不要 3) その他 ()

問4. 文字を手書きすることは好きですか？

- 1) 好き 2) 嫌い 3) どちらともいえない

問5. 自分が書く文字についてどう思っていますか？

- 1) 満足している 2) 満足していない 3) どちらともいえない

理由：

問6. 上記問5で〈満足していない、と答えた人に〉うまく〈きれいに、あるいは整えて〉書けるようになりたいと思いますか？

- 1) 思う 2) 思わない 3) その他

理由：

問7. あなたは文字を手書きすることについて、どうあるべきだと思いますか？

- 1) きれいに(美しく)書いた方がよい 2) 読めればよい
3) 個性的であればよい 4) その他 ()

問8. 機会があれば、字(書写、習字または書道)を習ったり、書道(芸術)をやりたい、と思いますか？

- 1) 思う 2) 思わない 3) わからない

理由：

問9. 自分の書字活動に問題点や課題があるとすれば、次のどんな点だと思いますか？

- 1) 字形 2) 持ち方・姿勢 3) 筆使い(ペンや筆の動かし方) 4) その他

問10. あなたが受けた小中学校の書写の授業は満足できるものでしたか？

- 1) 満足している 2) 満足できなかった 3) その他 ()

⇒どのような授業でしたか？ 具体的に書いてください。

小学校

中学校

問11. 小中学校の書写教育に問題点や課題があるとすれば、どのような点だと思いますか？

問12. 義務教育で書写の教育は必要だと思いますか？

- 1) 必要 2) 不要 3) その他 ()

理由：

問13. 上記問12で〈必要、と答えた人に〉、毛筆と硬筆について必要と思いますか？

- 1) 毛筆と硬筆両方必要 2) 毛筆のみ必要 3) 毛筆は小筆のみ必要
4) 毛筆は大筆のみ必要 5) 硬筆のみ必要

問14. 書写教育は、どのような教育的役割が期待できると思いますか？

問15. 小中学校の教員の能力として書写の能力(理論・実技)は必要と思いますか？

- 1) 必要 2) 不要 3) その他

理由：

問16. 自分が教員になって書写を担当すると仮定したら、教える自信がありますか？

- 1) ある 2) ない 3) その他

理由:

問17. あなたの性別は? 1) 男 2) 女 以上